

平成21年8月25日

社団法人日本腎臓学会

理事長 榎野博史

意見書

1. 新型インフルエンザ感染により重症化しやすいため、新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれる基礎疾患を有する者の範囲や定義について腎疾患関連領域において新型インフルエンザ重症化のリスクとされる免疫能低下状態が想定される疾患／状態は以下と考えられる。これらの疾患罹患者は新型インフルエンザワクチンの優先的接種対象と考えられる。

- a. 慢性維持透析患者
- b. 透析導入間近の保存期腎不全患者（CKD ステージ5）
- c. 腎機能高度低下患者（CKD ステージ4）のうち、免疫能低下や他の重症化因子である慢性呼吸器疾患、心疾患等を合併する患者。免疫能低下状態の一つには進行した糖尿病性腎症が挙げられる。
- d. 免疫抑制療法を受けている患者（ネフローゼ症候群、慢性糸球体腎炎、血管炎、自己免疫疾患等）
- e. 腎移植患者

一方、上記ハイリスク患者と日常的に接触する医療従事者が患者への感染源となった場合、医学的・社会的両面から重大な問題を引き起こすことから、優先的ワクチン接種対象として考慮する必要がある。特に、複数の死者が報告されている透析患者が定期的に通院する透析施設の医療スタッフについては、その必要度が高いと考えられる。ワクチン供給量との兼ね合いはあるものの、検討対象としていただきたい。

2.1の者に接種する場合の有効性と安全性について

安全性：季節性インフルエンザワクチンの場合、これまで安全性について問題

とはなっていないが、新型インフルエンザワクチンについては当然ながら情報はない。季節性インフルエンザワクチンでの経験に照らして安全性に重大な問題が存在する可能性は高くないと想定されるものの、使用開始後の安全性調査は不可欠であろう。

有効性:季節性インフルエンザワクチンについては、CKD 患者では全入院で-13%、死亡-34%の減少が米国で報告されている。一方、上記 d、e に該当する場合、免疫抑制薬服用によってワクチン接種後の抗体獲得効率低下は懸念されるものの、米国の腎臓移植ハンドブックにおいては、重症化リスク軽減効果が期待されるため積極的接種を推奨している。USRD データにおいても移植患者でのワクチン接種率は経年的に上昇しており 2007 年では全体で 40%、65 歳以上では 60%弱となっている。

参考資料

エビデンスにもとづく CKD 診療ガイドライン

Collins AJ, Foley R, Herzog C, Chavers B, Gilbertson D, Ishani A, Kasiske B, Liu J, Mau LW, McBean M, Murray A, St Peter W, Xue J, Fan Q, Guo H, Li Q, Li S, Li S, Peng Y, Qiu Y, Roberts T, Skeans M, Snyder J, Solid C, Wang C, Weinhandl E, Zaun D, Zhang R, Arko C, Chen SC, Dalleska F, Daniels F, Dunning S, Ebben J, Frazier E, Hanzlik C, Johnson R, Sheets D, Wang X, Forrest B, Constantini E, Everson S, Eggers P, Agodoa L. Excerpts from the United States

Renal Data System 2007 annual data report. Am J Kidney Dis 2008 ; 51 : S1-S320.

Danovitch GM, Handbook of kidney transplantation, 第 4 版, p330.